



林 声



OKAYAMA

お か や ま

№. 349 . 2000 . 1 . 1



賀 正

2000 元旦

奥谷の流れ柿（加茂川町）

目 次

新年のごあいさつ	2	平成11年度功労者表彰受賞者の紹介 ...	6 ~ 7
シリーズ地域の名木	3	“ 樹 ”	8
普及指導最前線	4	お知らせ	9
普及指導区の紹介	5	林産物市況等	10

新年のごあいさつ



岡山県林業改良普及協会

会長 高 宮 明

新年おめでとございます。
西暦二千年の輝かしい年を迎え、会員の皆様方にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

平素当会の運営につきましては、格別のご支援、ご協力を賜っておりますことを厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、我が国の経済の状況は、銀行など大企業の大合併、最悪の失業率などかつてない激動の一年であつたといえます。

また林業を取り巻く情勢は木材価格の低落、林業生産活動の停滞、労働力の減少など依然として厳しく、明るい兆しがなかなか見えて来ない状況にあります。

一方で、地球環境問題が注目を集め、地球温暖化防止の観点から、森林・木材の持つ二酸化炭素の吸収源・貯蔵庫としての機能が改めて認識され、森林の新たな公益機能に注目が集まっております。こうしたなか、国においても「緊急間伐五力年対策」による計画的な間伐の実施など適正な森林の維持管理や持続可能な森林造成を推進するための積極的な施策が講じられており、林業・木材産業界への追い風になるのではないかと期待しているところであります。

こうしたことから、県においては、岡山の森林・林業のあるべき姿や豊かな森林を次世代に引き継ぐための道筋となる「二十一世紀森林・林業ビジョン」を策定しているほか、緑豊かで健全な森づくりを県民参加で推進するための「おかやま森づくり県

民基金」の創設に向けて協議を進めていきます。

林業普及指導事業も発足以来五十年を経過し、これまで、地域林業の振興・森林・林業のPR、林業後継者の育成等に大きな役割を果たしてきましたが、今後は、森林の多様な機能の持続的な発揮を図るための森林整備を推進するため、林業経営者である森林所有者等に加え、多様な林業の担い手等に対する重点的な働きかけを行うなど、より一層の效果的・効率的な活動体制への転換を求められています。

当普及協会といたしましても、これらの施策効果が一日も早く現れ、林業・木材産業が再び活力を取り戻すことができるようできる限りの協力をさせていただきたく所存であります。

森林は、木材生産のほか水資源の涵养、災害防止など、私たちの生活になくてはならない存在であるとともに、地球温暖化防止の鍵を握る重要な資源であります。この森林を適正に維持管理し、より良い姿で二十一世紀に引き渡すことは、私たちの使命であり、どうしても成し遂げなければならない責務であると考えております。

会員の皆様方におかれましては、二十一世紀に夢を託し、それぞれの分野でますます御活躍されますとともに、本年が皆様方をはじめ、林業・木材産業界にとりまして、飛躍の年になることを心から祈念いたしまして、年頭のごあいさつとさせていただきます。

シリーズ地域の名木 5

「奥谷の流れ柿」は、御津郡加茂川町上加茂奥谷地内にあります。

加茂川町役場から岡山市に向

かって国道四一九号線を車で走っていると、約一キロくらい行った道路右手に「奥谷の流れ柿」への看板が見られます。看板の案内に従って小道を山中へ二分ほど入っていくと、右上方に枝を大きく広げたこの柿の木の姿が見えてきます。

上加茂奥谷の丘陵上に立つ、古色溢れるばかりの幹を持つこの柿の木は、樹齢推定五〇〇年で、柿の巨木としては県下で三番以内に入るものではないかと



いわれています。加茂川町では、昭和四八年に町の天然記念物の指定して、保全に努めています。

この柿の木は枝が下垂して柿の玉が流れるように見えることから、周辺の人々に「流れ柿」と呼ばれています。樹齢に似合わず実成りも良いのですが、残念ながらその実はやや小さめの渋柿です。

目通り周囲約三、一五メートル、樹高一二メートル、枝も均整良く東西南北に広がっており、樹勢の衰えを感じさせないほど立派な木です。しかし、幹は根元から中位まで空洞化し内部が腐朽してき

ため、平成七年九月に町が樹木医に依頼し腐朽部の除去などの外科手術を行った結果、今でも秋になるとたくさんの柿を実らせています。加茂川町には、この他にもたくさんの巨樹、老

樹があります。そのうちの 하나가、町内一の巨木どころと言われている加茂総社宮の社叢です。

加茂市場にあるこの総社宮は、樹齢推定五〇〇年、樹高約

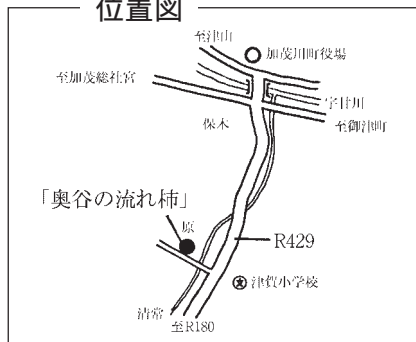


三八メートルのヒノキや、樹齢推定五〇〇年、樹高約四〇メートルのイチヨウなどが林立し、社叢を形成しています。またここでは、県下三大祭の一つと言われる岡山県指定重要無形民俗文化財「加茂大祭」が、毎年十月の第三日曜日に行われ、いつもは静かなところですが、この日はかなり大勢の人で盛んなにぎわいを見せています。

加茂川町にお越しの際は、地図や良く整備された看板を頼り

に、いろいろと訪ねてみてはいかがでしょうか。(岡山普及指導区 Ag 有田美和)

位置図



普及指導最前線

「源流の森林を救おうin阿波」

一 はじめに

森林は、水源のかん養など様々な公益的機能を有しており、公共財としての重要性が高まっています。

森林の管理は、これまで中山間部を中心に行われてきましたが、過疎化・高齢化が進むにつれ、森林の手入れをする人が減少するなど、中山間部だけで森林を適切に管理することが困難な状況となっています。

こうしたなか、今後の森林を育成していく上で、都市住民の理解と協力を得ることが重要な鍵になると思われます。

このため、当指導区では、吉井川流域の源流部にあたる阿波村において、ボランティアを募り森林整備を図る「源流の森林を救おうin阿波」を十二月四日に開催しました。

実施にあたっては、「津山地区林業研究グループ活性化推進会議」が主催者となり、ボランティアと林研グループとの交流を深めることとしました。

報道機関をはじめ、企業や学校関係を中心に募集した結果、

県内はもとより兵庫県やセネガル共和国の留学生など、募集人員五十名に対し、六十三名応募があり、最終的に五十二名の方に参加していただくことになりました。

二 源流の森林を救おう

当日は午前十時から開会式を行い、主催者、阿波村町の歓迎あいさつの後、林業改良指導員が今回開催した趣旨、作業内容等を説明しました。

対象林分は、ヒノキ三五年生で、実施面積は約一・二ヘクタールです。これまで、間伐が全くされておらず、林内は暗く下草も生えていない状況でした。

作業は、ボランティア五名を一班とし十班編成により行い、各班に林業改良指導員、林研グループ会員などが加わり、作業方法、安全確認などの指導を行いました。参加者には主に伐倒後の玉切り、枝払いを行っても



りました。なかには、実際にチェンソーで伐採したいという方もおられ、林業改良指導員などが補助しました。

昼食後、参加者全員でフリートーキングを行い、作業した感想や、参加した理由を聞くなど、交流を深めました。「森林を守ることは大切なことだ。今後、こうしたイベントを続けてほしい。」とか「若い人の参加を増やすことが重要だ。」など多くの意見があり、たいへん参考になりました。

作業修了後、参加者は、林内に日が差し込み、明るくなった姿を見て、とても満足している様子でした。

三 今後に向けて

募集開始までは、この程度応募があるのか不安もありました。しかし、多数の応募があり、熱心に作業している参加者の表情を見ると、こうした取組みが将来の森林・林業を支えるための重要な足がかりになると確信できました。

今後、活動をさらに広げ、一人でも多くの方の理解と協力が得られるよう頑張っていきたいと思えます。

(苦津普及指導区 Ag 馬場宏治)

久米普及指導区の紹介

一 はじめに

久米普及指導区では、平成十四年度から施行される新教育課程における「総合的な学習の時間」に着目し、平成十一年度の普及重点事項にもあげている、森林・林業教育の推進に特に重点を置いた活動をしています。

二 総合的な学習の時間

子供達の「生きる力」を育成するため「総合的な学習の時間」が新しく創設され、各学校は地域や学校の実態等にに応じて、広がりをもつ学習や児童の興味、関心に基づく学習など創意工夫を生かした教育活動を行うものとするように求められている。

また、「文部省、農林水産省連携協議会」が設置され、基本方針として、学校外を中心とした農林水産体験学習等についての連携、学校教育における農林水産事業等に関する学習についての連携などが揚げられている。森林・林業教育は、林業改良指導員等が学校（教職員）と連携した推進体制の確立が早急な課題と考えます。

三 普及指導区の取り組み

七月十六日、八月二日

「教育現場における森林・林業教育の意向調査に係る準備会」
内容 アンケート（案）の作成及び検討委員選定等。
八月十一日

「教育現場との連携及びアンケート（案）検討会議」
内容 アンケート（案）及び実施方法等の検討並びに教育現場の実情把握。

（検討委員）
林委員長（津山局森林課長）
友保委員（久米町立喬松小学校校長）
長畑委員（森林インストラクター）
地職委員（森林インストラクター）
黒瀬委員（林業専門技術員）
津嶋委員（岡山県林業公社）

八月二十一日
「親子の森林学習の開催」
内容 講師に森林インストラクター長畑三氏を招いて久米南美しい森で開催。久米南町立喬松小学校児童二十七名、父兄等三十六名が参加。
十一月二十日

「地域環境創造実践活動（久米

南美しい森保育の集い）

内容 イベントの一部において、学

校教育の一環として、久米南町立弓削小学校の教育者と五、二十二年生と名と連携。



八月～十二月

「各教育委員会へのアンケート調査趣旨説明会及び実施依頼」
内容 津山局管内全教育委員会及び小学校教育者に対するアンケート調査の趣旨説明及び実施依頼。
今後の予定

十二月末

アンケート結果取りまとめ

一月中

アンケート結果の報告
インターネット教育の開始
（ホームページ「森林なんでも相談室」の開設）

四 最後に

森林の大切さやその森林を守り育てる事への理解の深まり、森林とのふれあいや、木材の有効な利用が進むことが普及指導区の願いです。そのために、



学校や教育委員会と連携した森林、林業教育の推進が重要であると考えられています。

五 林業改良指導員等の紹介

安東孝次（地区主任）、「森林が教育現場で大いに活用され、今後の普及活動により森林、林業の発展と地球環境の保全を願う。」

江見喜光 津嶋敏彦 久野直人
小川章子 菅野章宏 野上英孝
（久米普及指導区Ag一同）

連絡先 津山市山下五三番地
岡山県津山地方振興局森林課
普及振興第二係
☎（〇八六八）二三 二三一一
内線 二七九 二八一

平成十一年度功労者 表彰受賞者の紹介

平成十一年十月三十一日、灘崎

している。

三浦重美（備中町西油野）

主な役職

町のおかやまフアーマーズマー
ケット サウスヴィレッジで開
かれた「ふるさと・ふれあい交
流フェスティバル」において、

・元岡山県山林種苗協同組合
理事長

主な功績

永年農林漁業の振興に尽くされ
た個人と団体の表彰が行われま
した。

・勝英地域の木材同業組合員の
指導に努め、企業体質の改善
を図る一方、県産材の需要拡
大を推進している。

難波芳英（旭町江与味）

主な役職

そのうちの林業関係受賞者の
概要について紹介します。

・多年にわたり山行苗の生産振
興に取り組み、その間、地域
の生産組織の創設、運営にも
献身的な努力を果たし、ま
た、岡山県山林種苗協同組合
の理事長として林業の振興に
多大な貢献をした。

・岡山県山林種苗協同組合副理
事長

一 第三十二回農林漁業功労者 表彰

〈知事表彰【林業】〉

粟井良吉（勝北町日本原）

主な役職

・岡山県山林種苗協同組合理事
主な功績

・五十年以上の永きにわたり終
始一貫して優良種苗の生産に
積極的に取り組むとともに、
苗木生産者の指導、生産体制
の確立と需給の円滑化に貢献

〈農林水産部長表彰【林業】〉

宮田修治（勝山町岩井谷）

主な役職

・真庭地域林業研究連絡協議会
長

主な功績

・優良材生産、しいたけ生産を
主体とした複合経営に取り組

み、また、岡山県林業研究グ
ループ連絡協議会副会長とし
て幅広い活動を通じて林業の
振興に貢献している。

大石 丞（美作町林野）

主な役職

・勝英木材同業組合副組合長

主な功績

・岡山県木材組合連合会などの
役員として技術改善の推進、
流通改善の指導などを積極的
に推進し、岡山県木材産業界
において広範な活動を展開し
ている。

〈農林水産部長表彰【団体指導】〉

河田敏雄（御津町中泉）

主な役職

・御津町森林組合代表理事組
長

主な功績

・地域の森林資源の造成と整備

主な功績

・地域の山林種苗生産者のリー
ダーとして生産者の指導・技
術の普及に努め、山林種苗生
産体制の確立と需給の円滑化
を図っている。

〈知事表彰【団体指導】〉

高田和弘（岡山市奥田）

主な役職

・岡山県木材組合連合会副会長
主な功績

を推進するとともに、岡山県森林組合連合会理事として森林組合系統組織の強化、事業運営の健全化に貢献している。

矢野勝三（久世町久世）

主な役職

- ・久世木材協同組合理事長

主な功績

- ・久世木材協同組合理事長などの理事長として岡山県北の木材需要の拡大、技術の改善、流通の促進指導等を積極的に推進している。

二 第三十九回農林漁業近代化

表彰

岡山県ジャス製材事業協同組

合（津山市）

功績内容

- ・県内唯一のJASに係る法人で、美作材を全国ブランドに育て上げた原動力となり、国産材需要の喚起、木材産業の再構築を目指すなど林業・木材産業の振興に貢献している。

加茂川町森林組合（加茂川町）

功績内容

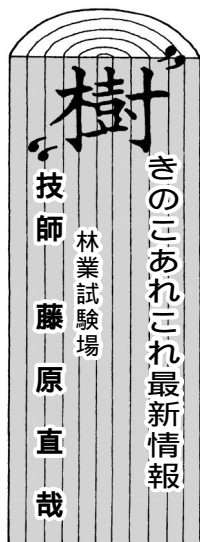
- ・森林資源の造成と整備、特用林産物の生産振興などに積極的に取り組むとともに、若年林業労働者の育成や高性能林業機械の導入を促進するなど地域社会の振興に貢献している。

また、今年度から新たに始まった「二十一世紀おかやま農林水産業活性化優良活動団体等表彰」の地域環境創造実践活動部門において、倉敷地域美しい森づくりの会が表彰されています。

（林業専門技術員 吉岡哲哉）

昨年は、きのこに関する話題が数多くありました。例えば、植物の仲間の菌が、実は遺伝的に動物に近い生物とわかりました。近い将来私達の知識は大きく変わります。冬虫夏草だけでなくヒラタケも線虫を捕捉して食べる事が知られていました。未だ訳の分からない生物なのです。一方で日本には棲息しなかつた毒きのこ「オオシロカラカサタケ」も、南方から台風に乗った胞子が温暖化により関西に定着するようになりまし

た。ところで、代表的なきのこは煮ても焼いても、揚げて美味しくしいシイタケですが、ヨーロッパではマイタケが大人気です。日本でもトリュフが見つかりましたが人気はさっぱりです。ブラジルからやって来たアガリクスですが、地元では評判が悪く、効果も不明とされます。きのこの生産は年々国際化してい



ますが、国により受け入れ方が異なります。そして流行があります。これからのきのこ生産には、いち早く情報をキャッチする耳と、適した料理を開発する腕が問われると感じています。これらの事柄は、きのこの多様性に起因するものです。

日本ではホンシメジとマツタケが珍重されます。ホンシメジは滋賀県森林センターの研究員

が麦ご飯に多少の添加物を加え、人工栽培に成功しました。これまでの菌根性きのこの常識を覆す出来事でしたが、普及技術として、誰でも使えることになりました。しかし生産コストが高く、残念ながら広く普及されていません。当然マツタケも試したそうですが、菌が立たなかつたそうです。

お隣の韓国でも研究者の養成

が始まっています。また、ニュージーランドでも、南半球で初めてマツタケが発見され、日本の技術により菌根が形成されました。桜の咲く頃日本に輸出できるからです。しかし、現在の段階では「環境整備」以上の技術は見当たりません。マツタケに関しては、日本の研究が

トップのようです。どうしてマツタケの人工栽培は難しいので

しょう。それは、マツに栄養を頼り、自分で作る能力を持たないこと。長い間「ヒモ」をしたため、自活の能力を欠いたので。驚いたことに、分解酵素もわずかにあるだけです。人工培地では、栄養不足できのこが形成されません。それに対しホンシメジは各種の酵素を持っています。生育環境に敏感であること。渓流に潜むヤマメのように、清潔な山にしか棲息しません。腐敗物を好む菌を敬遠し、競合すると負けます。マツから貰う栄養が科学的に不安定で分析が難しいこと。かつて「菌

付き苗法」が行われましたが、

ほとんどアカマツに菌根を形成させることができず、失敗におわりました。そのため、現在の最良の方法は雑木の伐採と落ち葉など腐敗物の除去です。大変な重労働です。しかし、マツタケの魅力は燦然と輝いています。面積に関わらず取り組みたい技術です。

きのこは色々な面で多様性に富み、生態も解明されていません。栽培も非常に専門的な知識が必要です。しかし、既に世の中には食品として認知され経済的な価値も持っています。繊維質が多く、便秘の妙薬として取り上げられることも多くなりました。種類も毎年のように増加し、市販の図鑑には代表的なものしか掲載されていません。研究が進めばまた知られざる顔が出現することでしょう。

お知らせ

林業改良普及指導事業五十周年記念
功績者・功労者表彰

林業普及指導事業は、昭和二十四年に発足し、本年度五十年を迎えました。

五十周年記念会（全国林業改良普及協会等四団体で構成）主催による記念行事が十二月一日・二日に東京都で開催され、その場で林業普及指導事業功績者及び功労者の表彰が行われましたので、岡山県関係表彰者を紹介します。

一 林業普及指導事業功績者

〈林野庁長官賞〉

山口紀久子（神郷町）

二 林業普及指導事業功労者

〈林野庁長官賞〉

山岡 嘉助（林業試験場）

忠政東洋三（津山地方振興局）

板坂忠義（勝英地方振興局）

〈五十周年記念会長賞〉

濱田保雄（県庁林政課）

安東孝次（津山地方振興局）

池田敏之（真庭地方振興局）

芦田修正（津山地方振興局）

小林建二（倉敷地方振興局）

磯田耕治（阿新地方振興局）

柳谷義博（真庭地方振興局）

藤井芳典（井笠地方振興局）

近藤和夫（阿新地方振興局）

中村 学（高梁地方振興局）

今津 学（岡山地方振興局）

芦田素廣（阿新地方振興局）

（林政課）

「美しい森づくり講演会」
の開催

美しい森づくり推進会議（県下九つの美しい森づくりの会で構成）では、森林・緑の重要性について理解と認識を深め、これからの森づくりのあり方などについて考えるため、次のとおり「講演会」を開催します。

一日 時

平成十二年二月二十四日（木）

一三 三〇～一五 三〇

二 場所

岡山国際交流センター

三 講師

林 進はやしすすむ

【演題】
「パートナーシップ（協働）の森づくり」

活動をどう組み立てるか

【講師プロフィール】

一九四〇年生まれ。

和歌山県出身。

岐阜大学農学部教授。

雑木林研究会会長、全国雑木

林会議世話人、農林水産省中

央森林審議会専門調査員、日

本林学会評議員。

山林、里山、都市の緑環境の

利用・保全に係わるとともに、

市民参加の森づくり活動の

理論的・技術的指導を多くの

地域でおこなっている。

著書に「森の心、森の知恵」

（学陽書房）、「里山ハンド

ブック」（日本林業調査会）

など多数。

四 定員 二〇〇名

五 参加料 無料

六 申込み・問合せ先

県庁林政課

美しい森づくり推進班

☎〇八六 二二四 二二一一
（内線三三三四）

林 産 物 市 況

製 材 (12月中旬)

杉 正 角 3m			桧 正 角 3m			桧 長 柱 6m		
寸法	等級	安値 - 高値 (千円)	寸法	等級	安値 - 高値 (千円)	寸 法	等級	安値 - 高値 (千円)
6.0	一等	25 - 30	6.0	一等	43 - 50	10.5	特等	90 - 95
7.5	一等	20 - 22	7.5	一等	33 - 35	12.0	特等	120 - 125
9.0	上一	18 - 20	9.0	上一	20 - 22	"	上小	130 - 140
"	一等	22 - 24	"	一等	28 - 30	13.5	特等	95 - 100
10.5	一等	35 - 40	10.5	一等	70 - 75	"	上小	110 - 120
"	特等	40 - 45	"	特等	80 - 83	ラ ス 板		
"	上小	55 - 60	"	上小	110 - 150	2m 1.2× 9.0		20 - 23
"	無節	70 - 90	"	無節	180 - 200	3m 1.2× 9.0		23 - 25
12.0	特等	35 - 40	12.0	特等	83 - 85	2m 1.5×10.5		25 - 30
"	上小	50 - 60	"	上小	110 - 150	2m 0.9×24.0		65 - 70
"	無節	60 - 70	"	無節	180 - 200	2m 1.5×21.0		33 - 37
長 サ 4m			長 サ 4m			造 作 材		
6.0	一等	35 - 38	6.0	一等	53 - 58	杉 4m 3.0× 3.0	無節	(本) 6 - 8
9.0	上一	22 - 23	9.0	上一	28 - 30	杉 4m 4.0× 4.5	無節	(本) 12 - 20
"	一等	30 - 33	"	一等	45 - 48	杉 4m 4.5×10.5	無節	180 - 200
10.5	特等	40 - 45	10.5	特等	75 - 80	桧 4m 4.5×10.5	上小	150 - 200
12.0	特等	38 - 40	12.0	特等	75 - 80	桧 4m 4.5×10.5	無節	250 - 300

木 材 (12月中旬)

長さ	径 (cm)	杉 (千円)	桧 (千円)	松 (千円)
3m	7 - 12	9	17	-
	13	16	32	-
	14 - 16	21	40	-
	18上	17	38	13
4m	7 - 12	14	20	-
	11 - 13	-	-	-
	14 - 16	-	39	-
	18上	16	32	23
6m	14 - 16	-	59	-
	18 - 20	-	52	-

乾しいたけ (11月中旬)

名柄別	価格	
	平均	高 値
香 信 大 葉	51	69
" 中 葉	45	64
" 小 葉	29	54
バ レ 大 葉	30	45
" 中 葉	18	39
ス ラ イ ス	18	20
香 茹	55	73
上 冬 茹	46	66
並 "	33	58
並 並 "	19	38
小 玉 "	10	23
格 外 品	11	30

編集後記

新年おめでとございます。
 二〇〇〇年代の幕開けの年、
 希望に満ちた輝かしい新年を迎えられたことと思います。
 ○林業普及指導事業が昨年五十年を迎えました。
 私達の「林声」も昭和二十五年「林業普及」の名称で誕生し、本年五十周年を迎えます。
 ○今年も「林声」をよろしくお願ひします。
 (B)